

事業継承への道しるべ

おおち 大地酒造株式会社

酒造りに魅せられ、老舗酒造会社を受け継ぐ

酒米作りから始めて 廃業を考えていた5代目を説得

大地酒造は、佐伯市船頭町で1885年（明治18年）に創業。老舗の酒蔵が廃業していく中、130年以上の歴史を守り続けてきた。そして一昨年、5代目・大地正一さん（69歳）から事業を受け継いだのは、同社の取引先でもあった酒販店の経営者、池田敬さん（58歳）だ。

池田さんは同市上浦で父親とともに酒店を営んできた。20年前頃から地酒専門店に切り替え、こだわりの焼酎や清酒を造っている全国の蔵元を回るうち、「自分も造ってみたい」と夢を持つようになる。同市内の大地酒造とは長い付き合いがあり、ある時、大地さんが試作した純米酒を飲ませてもらい、そのおいしさが忘れられなかった。繁忙期には酒造りを手伝って教えるを請い、広島醸造試験所で基礎から学ぶなど、酒造りへの意欲が高まっていった矢先、大地さんから後継ぎがないので廃業を考えていると聞いた。10年近く前のことだ。

あの大地さんの技術を絶やしたくない。なんとか承継したい。そう考えた池田さんが始めたのは、米作りだった。

「以前から地元産の山田錦で酒を造りたいという話を聞いていたので、作って持って行けば教えてもらえると思って（笑）」

津久見市で障がい者の就労支援などに取り組むNPO法人やまびこクラブの協力も得て、通所者たちと一緒に



杜氏として酒造りに情熱を傾ける池田司専務



5代目の大地正一（右）と、6代目を継いだ池田敬社長

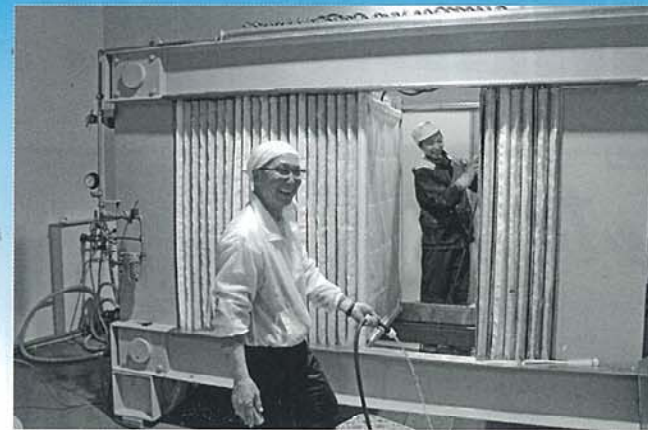
作った山田錦を大地さんの元に持ち込んだ。それから毎年、収穫米を持参し、酒造りに参加。2015年にはこの山田錦で仕込んだ純米酒「龍爽香」が生まれた。最初は大地さんから「くず米」と言われるほどだった米も年々品質がよくなって収量も上がり、酒の味も向上。5年目となった一昨年、ついに池田さんの「本気度」を認めた大地さんから、事業承継にゴーサインが出た。

酒造りに最適な地下水が湧く 上浦の新工場が本格稼働

2018年7月、大地酒造は合資会社から株式会社に組織変更し、池田さんが株式を100%取得して代表取締役として就任。大地さんは会長として技術支援を担うことになった。承継にあたっては商工会を通じて大分県事業引継ぎ支援センターのサポートを受け、実務面もスムーズに進行。ものづくり・商業・サービス補助金を活用して市内上浦浅海井浦に建設した新工場が、今年2月に完成し、4月27日に本社を移転した。

「大地酒造は無借金だったので辞めても何のリスクもなかったんです。会長は悠々自適のはずだったのに私が要らんことを言ったおかげで（笑）、今も毎朝、車で30分かけて来てくれる。本当にありがたい。すべて会長の愛情ですね」

池田さんの弟・司さん（56歳）の存在も大きかったという。酒造業界で15年働いている。杜氏として5年務め



工場の清掃は大切な仕事。やまびこクラブのメンバーが加勢してくれる

た司さんが同社に参画してくれることになったのである。「酒造りは目に見えない微生物と共存して目標の味に近づけなければいけない。長い経験がないと無理なんです」司さんは、二昼夜かけて行う麴造りには特にシビアで、「ここまでやるかなあというほど麴に一生懸命になる。なかなかああいう男はいない」と兄も一目置く職人気質の杜氏だ。さらに、「龍爽香」にほれ込んで酒造りを志願してきた25歳の池田大野さんも加わり、新たな酒造りが始まった。

新工場は、気温の高い佐伯市でも10～6月まで仕込みができるよう、広い冷蔵室を設置。敷地内で「酒造りに最適」という適度な軟水を掘り当て、今年度はこの水で仕込んだ。「今年の新酒は味が違いますよ」と池田さんも自信満々だ。

パツと花が咲いたような 笑顔になれるお酒を造りたい

新体制となった昨年、新ブランド「花笑み」を立ち上げた。花笑みという美しい言葉は万葉集にも登場し、つぼみが開く、満面の笑みなどの意味を持つ。山田錦をぜいたくに使用し、足元に湧く良質な地下水で仕込んだ純米酒だ。4種の花笑みのラベルには、お酒のイメージに合わせてカスミソウや胡蝶蘭などの花が描かれている。「めざしているのは食事と相性のいい食中酒です。ガ



新たなメンバーで酒造りに挑む。右端が新人の大野仁士さん、左端はやまびこクラブ職員の古賀欽也さん



「花笑み」は純米・特別純米・純米吟醸・純米大吟醸の4種類。各々のイメージに合わせた花の絵も素敵だ

ツンと辛口の純米はジビエや肉料理、やや辛口の特別純米は地元特産のブリやマグロ、すっきりした純米吟醸はカキと抜群に相性がいい。やや甘口で柔らかな純米大吟醸はどんな料理にも合い、贈り物にもおすすめ」とのことだ。新酒は初夏から順次出荷されるそうで、心待ちにしている。

現在は清酒2銘柄で100石（一升瓶1万本分）を製造。再来年までに300石が目標で、本社横に冷蔵貯蔵庫を新築して音響熟成にも挑戦する計画だ。余談ながら池田さんはユーフォニウム奏者として市民楽団に所属し、地域の小・中学生とバンド活動にも取り組む大の音楽好きなのだ。

家業の酒店も継続しながら、夢だった酒造会社での新出発を果たして1年半。「やってよかったですか？」と尋ねてみた。

「これをやらないと、これからの人生、楽しくないだろうなと思います（笑）。22歳で地元に戻って、音楽をやり野球をやり、消防団や青年団など地域の人から支えてもらって楽しくやってきたので、恩返しをしたいという思いもあります。産業を興して雇用を生み、過疎化が進むこの地域に少しでも住人が増えてにぎやかになればいいなと」

楽しく笑顔で仕事をしたい。パツと花が開いたように笑顔になれるお酒を造りたい。そんな思いをこめた花笑みは、同社の新たな第一歩であり、地域を楽しくする第一歩でもある。

企業データ

会社名	大地酒造株式会社
代表者	代表取締役 池田 敬
所在地	佐伯市上浦大字浅海井浦277-1 TEL 0972-48-9388
設立	1885年（明治18年）
資本金	100万円
従業員数	2名
事業内容	酒類製造・卸販売
URL	http://sake.saiki.jp/hana/